

# せたがや 町総連だより

## 第 30 号

発行 世田谷区町会総連合会  
世田谷区若林4-31-9  
ポライト第2ビル2F  
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 後藤 正三  
編集情報誌編集委員 会  
編集委員長 鈴木 誠

あけましておめでとうの季節です



謹んで新年のご祝詞を申し上げます、併せて皆様

方のご多幸をお祈り申し上げます。平素は当連合会に對しまして特段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私、昨年6月の総会におきまして、倉本会長の後を受け世田谷区町会総連合会会長に就任いたしました。会長に就任した以上は、今までの経験と倉本会長の



新年あけましておめでとうございます。ありがとうございます。

町会・自治会の皆さんにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より区政に多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、町会・自治会は、人と人とのつながり、地域

世田谷区町会総連合会 会長 後藤 正三

情熱を生かし、会長として万全を期してまいりたいと思っておりますので何とぞよろしくお願い申し上げます。

現在、世田谷区内には196の町会・自治会があり、世田谷、北沢、玉川、砧、烏山の各地域に分かれそれぞれ地域町会連合会として活動しております。

この5地域の連合体が町会総連合会であり、町会総連合会の目的は、各単位町会の自主・自立性を尊重しつつ、相互の連絡

協調を行うことにより、区内町会の円滑な運営と発展を図り、区民生活の向上と福祉の増進に寄与することであります。

そのためには、区役所をはじめ、警察・消防その他の行政機関と連携を密にし、区民生活の安全と、福祉の向上に努めていきたいと思っておりますので、会員各位のさらなるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

世田谷区長 熊本 哲之

の絆そのものであり、絆の深まりによって、安全で安心して生活できる地域社会は築かれるものであります。

区は、皆さんの協力のもと、地域の助け合い災害時要援護者支援事業を推進してあり、「災害時要援護者の支援に関する協定」を締結いただいた町会・自治会もお陰様で40団体となりました。

今年、「絆を大切に目配り！気づかい！思いや

り！」をモットーに、引き続き、いつまでも住み続けたい「魅力あふれる安全・安心なまち世田谷」の実現を目指して全力で取り組んでまいりますので、皆さんにはご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、世田谷区町会総連合会の益々のご発展と、会員の皆さんのご健勝を祈念いたしました。新年の挨拶とさせていただきます。

### 目 次

新年のご挨拶	1
町会・自治会活性化キャンペーン	2
地域情報	
世田谷地域 地域の活性化を図る町会活動	3
北沢地域 いつまでも住み続けたい町に	3
玉川地域 町会長の無念・夢・願い	4

砧地域 喜多見中部町会活動報告	6
烏山地域 地区町連の役割	7
行政情報 世田谷区民健康村	8
町総連ニュース	8
編集後記	8

# 町会・自治会活性化キャンペーン

「知りあい ふれあい 支えあい」を合言葉に取り組んでいる町会・自治会活性化キャンペーンも今年で4年目となりました。

町総連の呼びかけに応じて、各地域で多彩な活動が展開されています。

今号は、町総連と烏山地域での取り組みを中心に紹介します。

## 《町総連ホームページ立ち上げ》

6月の総会において、「町会・自治会の魅力発信!!」として、活動に関する情報発信を推進して加入促進を図るとともに、活動のさらなる活性化につなげるため、町総連広報ICT化の事業計画が承認されました。現在、5地域から選出された5人の委員によって、どんなホームページにするか、掲載内容やデザインに関する検討作業が進められています。

新年度には、インターネットでどなたにもご覧いただけるようになります。

なお、このホームページづくり事業は、今年度の「東京都地域の底力再生事業助成」の助成対象になりました。

ICT (Information and Communication Technology) とは、「情報通信技術」とも呼ばれる。ネットワーク通信による情報・知識の共有技術。

## 《まちづくりの専門家派遣》

町会・自治会活性化の取り組みは各所で行われていますが、烏山下町会(高橋和夫会長)では、まちの方々

に地域への愛着を深めていただくとともに、町会をさらに活性化させようと、新しい「まつり」を企画しています。この「まつり」は今年5月、世田谷文学館周辺を会場に開催されますが、町会の区域内を京王線と甲州街道が横断していて、分断されがちな住民相互の交流や絆の再生を図り、さらに、加入促進にも繋げたい願いもあるそうです。

町総連は、「まつり」の実行委員会へまちづくり専

門家をアドバイザーとして派遣し、この活動を支援しています。

## 《生涯現役フェア in 玉川、地域活動紹介フェア in 烏山》

定年を迎える団塊の世代などに地域活動への参加を呼びかける「生涯現役フェア」が、11月1日、玉川区民会館で開催されました。11月15日には烏山区民センターで、「地域活動紹介フェア」も行われました。それぞれ、玉川、烏山地域の連合会が担当して出展し、活動紹介や加入の呼びかけを行いました。



地域活動紹介フェア

## 《町会・自治会交流会》

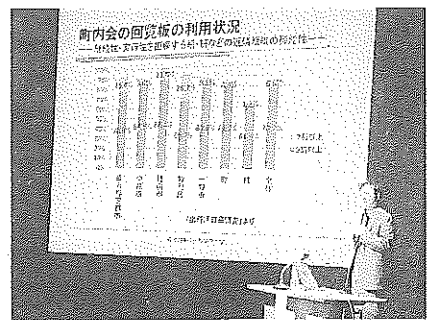
12月8日、北沢タウンホールにおいて、「世田谷区町会・自治会交流会」が多数の町会・自治会長の出席のもと開催されました。

第1部は、山梨学院大学法学部政治行政学教授日高昭夫氏が「町会・自治会の役割と課題」と題して講演を行いました。町会・自治会の役割を再認識して、その特長を活かした活動を自信をもって進めていきたい、とのお話がありました。

第2部は、「町会・自治会のさらなる活性化を考える」をテーマにしたパネルディスカッションでした。助言者日高教授をはじめ、千葉世田谷総合支所長、根岸若林町会長、宮崎大蔵住宅自治会長がパネリストとして登壇し、有限会社プレイスの福永氏がコーディネーターとなって、それぞれの現状や課題、活動の進め方に関して議論が進められました。



町会・自治会交流会 第2部 パネルディスカッション



町会・自治会交流会 第1部 講演会

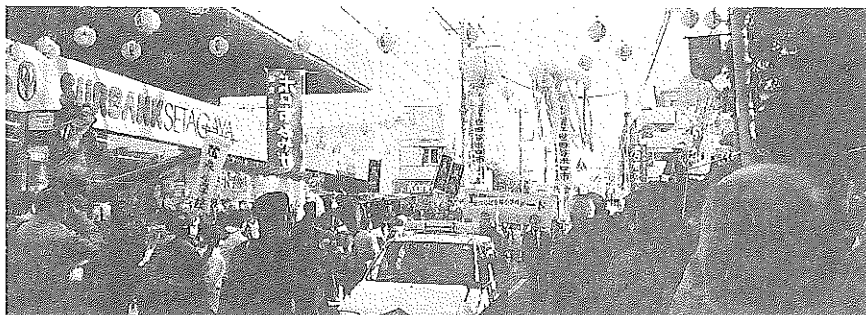
町会・自治会は、地域コミュニティの基盤です。住民に最も身近な地域活動団体として、会員同士が親睦を図りながら、助けあい、安全で安心な、まちづくりに取り組んでいきましょう。

地域情報

世田谷地域

地域の活性化を図る町会活動

世田谷二丁目町会会長 小池源一



世田谷ポロ市

①はじめに

歴史と文化のまちである世田谷区の上町地区は、遠く430年の昔、小田原城主北条氏政が楽市を開き、南関東を結ぶ中間の市場として繁栄したと伝えられている。

ポロ市の由来は戦国時代になってわらじに編み込むポロが安く売られるようになった。「ポロ市」の名が生まれたと伝えられている。また、国指定の重要文化財である代官屋敷は、徳川三代將軍家光が1633年に大場市之丞を代官に任じ、以後大場家は明治維新に至るまで235年間、代官をうけつぎ、現在もその歴史は地元の人々の心に生き続けている。

②歴史に囲まれた6町会 歴史と伝統に囲まれた地

域にある上町まちづくりセンターを中心に運営されている6町会(上町、世田谷東、桜、松丘、弦巻、世田谷二丁目)の共通点は、前段で述べた歴史の基盤を柱として伝統的な諸行事が行われていることである。なかでも「ポロ市」は最大の行事であり、最近では遠方から団体のバスで参加する見学者も多く見られるようになった。

そうした状況のなかで、

北沢地域

いつまでも住み続けたい町に...

北沢二丁目協和会会長 玉利久江

役員

北沢二丁目協和会は、約870世帯の町会です。平成21年度は、役員全員女性でスタートしました。

日頃の交流

井の頭線下北沢線路脇のごみ集積所は一年中ごみがあふれて困っていました。ごみゼロデーの機会に集積

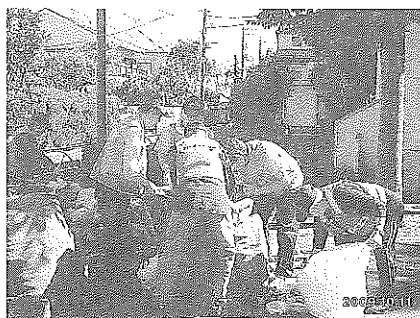
所利用の方々や商店会に戸別収集や回収場所の変更のお願いをしました。皆さんに快諾していただき、商店会からも掲示や回覧などで

毎月開催される町会会長会議は「安全安心のまちづくり」を目標に、防災や防犯活動の取り組み等が論議され、子どもを守る健全育成では学校と連携して児童・生徒の登下校時の交通安全指導に協力し、子どもを守る一助を担っている。また「防犯パトロール」のベストを着用して行う防犯活動は、6町会の共通する活動の一つである。

③資源リサイクル活動

世田谷二丁目町会は、区の奨励する事業の一つである、リサイクル活動を毎月行っており、第2と第4の日曜日に、各家庭から出される古新聞、古雑誌、ダンボール、古着、アルミ缶等

の資源回収を行っている。この活動は町会の役員をはじめ協力者が午前9時に公園に集合し、台車で町内を回り回収を行っている。また、作業時には防犯パトロールのベストを着用し、犯罪のない「安全安心のまちづくり」を実行している。



リサイクル活動

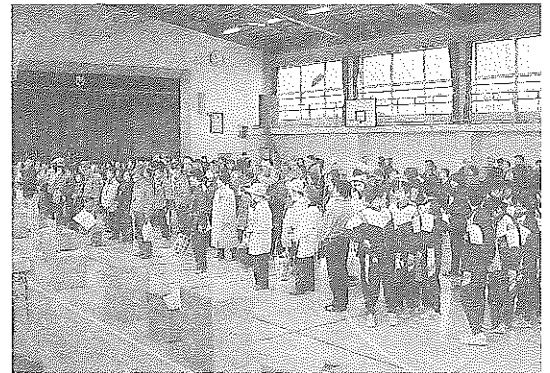
周知をしていただきました。これも懇談会や日頃の活動で商店会と交流があればこそと深く感じました。

移行期間中には清掃事務所が仮花壇を設置しました。ごみは置かれなくなり仮花壇は片付けられました。いつまでもごみを捨てられないように見守り続けていこうと思います。

イベント

下北沢はたくさんイベントが行われています。きたざわまつり・音楽祭・演劇祭・天狗まつり・阿波踊りなどそれぞれ主催や内容は違いますが、どれも大変賑わいます。そのイベント時に、町会にいろいろな声がかかります。今年天狗まつりでは袴の着付けを頼まれました。事前に着付けを習い、当日は汗だくで男女30名の袴の着付けを無事終えることができました。

毎年、秋のお祭りでは、商店会の女性部の方々と一緒に御神輿や山車を引っ張る方々へ昼食のお世話をします。その時は最初に自己紹介を行い、日頃あまりおつきあいのない方との顔つ



地区防災訓練 (北沢中学校)

なぎのいいチャンスとしてとらえています。

防災訓練

当町会エリア内に公園や空き地がないので、防災倉庫は隣の町会内の公園に置かせていただいています。こんな事情から夏休みのラジオ体操会場や地区防災訓練の一時集合所も、世田谷百景に登録されている道了尊の境内をお借りしています。

その北沢地区防災訓練が昨年は北沢中学校で実施されました。当日は、雨の為体育館内で防災ビデオ、車椅子操作法、AED、三角

巾の使い方などを学びました。

晴天時には「災害時要援護者の支援」に関わる訓練が予定されていきました。避難所に来られない方々(要援護者)の安否の確認や車椅子での介助訓練などをコースに分かれて中学生と

一緒に行く予定でした。参加者にもその内容の説明をして、来年度に繋がるようにアピールされました。当町会も「災害時要援護者支援の協定」を結んでいるので、参考になりました。

中学生も学校からの声かけで約40名の生徒が自主的に参加しました。早朝から準備や訓練、終了後には片付けと若い力をおおに発揮してくれました。

や堀、クーラーの室外機までも落書きをされます。住民や商店会は防犯カメラや人が通るとパツとつく街灯などで自衛していますが消しても消しても落書きをされます。落書きに対して人それぞれの考えがあり各商店会や建物の所有者の考え方もいろいろです。そんな中で町会では書かれても負けずにひとつでも落書きを消す活動をこれからも続けたいと思います。

いつまでも

町会長になっていろいろな相談を受けます。その時に適切な対応ができるように関係機関との連携や情報を整理整頓し、世代や男女を問わずいつまでも住み続けたいと思える町にみんなですしたいと思えます。

玉川地域

町会長の無念・夢・願い

奥沢交和会理事長 原田正幸

奥沢交和会(奥沢一・二・三丁目地域)理事長の無念は、4年前の秋から東

急・目黒線の奥沢駅に停まらない急行電車が導入されたこと、夢は奥沢地域の鉄

道が地下鉄になること、願いは町会が順調に運営されることである。

まず「無念」は、4年前、平成18年10月に東急目黒線・目黒→武蔵小杉間に

(現在は日吉まで) 急行電車が導入され、奥沢駅をノーストップで通過する現況である。ことに奥沢駅踏切では、下り急行電車が駅舎のカゲから猛スピードで飛び出してくるのが恐ろしく、

上下線とも急行が交錯するときは残念千万である。大正12年目蒲線の開通以来鈍行電車で慣れてきた奥沢住人には怖い踏切になり、踏切でのスピードダウン等改善策を東急電鉄宛お願いをしている。

次に「夢」は、今年4月に国・都・区・東急電鉄に陳情した奥沢地域の踏切解消である。平成19年5月に東急電鉄では、2020年(平成32年)を目途に目黒線を日吉から新横浜を通り相模鉄道・西谷(にしや)への延伸計画を発表された。

地域では諸団体有志が8月に集まり、2カ年協議の上「奥沢地域の踏切を無くす陳情書」を、町会・婦人会・高齢者クラブ・商店会・青少年団体等町の有志4178人の署名により国

土交通大臣・東京都知事・世田谷区長・東急電鉄社長に提出した。平成12年に完成した目蒲線→目黒線への

工事でも奥沢地域の鉄道路線は地表に留め置かれており、今回の西谷への延伸計画を最後のチャンスとして地域の夢が結集された。

そして「願い」は、町会の順調な運営であり、当会もお蔭様で恵まれた環境にある。

(組織・運営)

会員5000世帯・500班・加入率7割。理事会は奇数月の第一本曜日が例会で約50人・部長会随時・総会。

総務・経理・防火・防災・防犯・交通・高齢対策・文化・青年の各部と相談役・正副理事長・監査。

(活動・行事)

「災害時要援護者支援委員会」

民生委員・高齢対策部の協力を頂いて、理事全員で委員会を結成。区からの名簿に当会独自の「高齢者支援合い活動」名簿を加え、230人の高齢者・障害者

お一人おひとりに各2名以上の協力者を依頼。理事会時に委員会で情報交換。当会独自の「高齢者支援合い活動」は、区の制度が発足する10年前にスタート。

災害時に援護を望む高齢者を支えてきた当会の活動が区に評価されたと自負。

「長寿慶祝品・グラウンドゴルフ・お茶にしませんか」高齢対策部では75歳以上の約1000人に長寿慶祝品をお届けしており、この活動の中から前記「支え合い活動」への要望を把握した。

町内小中学校校庭で休日に開くグラウンドゴルフは多くの高齢者の笑顔で溢れ、月に1回の「お茶にしませんか」では、奥沢交和会の会館がくつろぎの場になる。

「女性消火隊・区民防災会議・防犯パトロール」玉川地域のD型ポンプ訓練には、赤い制服の女性消

火隊10名が参加する。当会はお隣の東玉川町会と協力し「奥沢・東玉川地区区民防災会議」を組織しており、地区内小中学校3校ごとに「避難所運営委員会」を設置し防災訓練に励んでいる。

奥沢駅前の噴水広場には「守ろうよ 私の好きな街だから」の大きな防犯幕を掲揚し、防犯パトロールを続行。防犯・防火・防災に地道な努力を重ねている。

「納涼盆おどり大会・新春奥沢地区まつり」学校が夏休みに入って最

初の土曜・日曜日は「盆おどり大会」で、奥沢小学校校庭は数千人の人々で賑わう。

新春、成人の日に近い日曜日には、東玉川町会・青少年奥沢地区委員会・PTA等と「新春奥沢地区まつり」を開催。ともに「ふるさと行事」として盛況。交通・文化・青年各部健在。

奥沢交和会は昭和21年創設、平成18年「創立60周年」を祝った。行政のご指導と地域諸町会とのご交際に、感謝報恩。



納涼盆踊り大会



奥沢地区まつり



砧地域

喜多見中部町会活動報告

喜多見中部町会会長

田中孝明

世田谷の中でも、みどり  
と水と畑が最も調和の取れ  
た町は喜多見ではないで  
しょうか。閑静な住宅地、  
高層化されたビルも無く、  
田園風景が残っている。各  
駅には少し遠いが、住むに  
は大変環境のいい所である。  
喜多見とつく町会は5町  
会あり、その中央に位置し  
ているのが中部町会である。  
北に野川、南に多摩川、由  
緒ある神社・仏閣、また史  
跡と文化の継承の地である。

町会の設立は、昭和23年  
6月で、法制化された町会  
組織を解消し、自主的な組  
織を作るよう東京都からの  
通達があり、解散後すぐに  
地元の名士による町会が発  
足する。当時の町会の組織  
は、100世帯前後の会員  
で運営されていたようであ  
る。活動項目も、防犯・防  
災・衛生など現在とあまり  
変わっていない。  
では今日はどうか。都市  
化が進み、新たに移り住ん

でくる方々が増え、町会の  
会員も900世帯になって  
いる。活動も基本的にも今も  
昔も変わらず、昔は行政の  
肩代わりの活動が多くあつ  
たようだ。60年経った現在  
は、区政の充実に伴い、広  
く住民が参加する組織とし  
て安全で安心できる生活環  
境を育てることが目的と  
なっている。

「活動の一部を紹介」

○交通安全運動 春秋 交  
通部主管

前日にテント張り、参加  
従事者の日程表作り、登校  
する児童や通行人に朝の挨拶  
の励行。1年2年と成長  
する児童を毎年送り迎える  
ことが楽しみである。参加  
者延べ100人以上

○夏休み子どもバスツアー  
毎年恒例となっているバ  
スによる子ども会である。  
目的は親と子どもの絆を深  
めることで、親同伴が参加

夏休み子どもバスツアー



条件の親子のツアーでもあ  
る。大山国定公園の日向山  
荘にてバーベキュー・水遊  
び、スイカ割り・マスのつ  
かみ取り等、楽しい夏休み  
の一日を過ごす。参加約80  
〜100名バス2台

氷川神社祭礼



○喜多見氷川神社(郷社)  
祭礼理事全員参加

祭神は、素盞鳴尊(スサ  
ノオノミコト)。創建は、  
天平12年と伝えられている  
延文年間に宮殿が大破し、  
ついで多摩川洪水のための  
古縁起・古文書などが流失  
し、詳細は不明。その後喜  
多見若狭守勝忠により再建  
され郷社となるなどの由緒  
ある神社である。伝統芸能  
で節分祭の鬼問答と大黒舞  
は、都内でも珍しい行事で  
ある。  
この祭に太鼓、神輿(み  
こし)、山車(だし)が引  
かれ、太鼓を叩く子ども達、  
神輿の担ぎ手に酒、軽食を、

子どもにはお菓子を振るま  
う。毎年参加者が多くなり、  
その対応が大変である。前  
日から女性達はその準備に  
忙しい。参加者子ども45  
0人、大人70人。

○喜多見地区区民まつり  
理事全員

喜多見まちづくりセン  
ター管内9町会と日赤・民  
協・社協・青少年地区委  
員・農協その他団体の参加  
によるお祭りであり、昨年  
で30周年を迎えた。

各団体が売店を出し、熱  
気上がる。中央にはイベ  
ント会場があり、老いも若  
きも見入っている。伝統芸  
能の里神楽が舞われ、子ど  
も神輿が舞い、舞踊、フラ  
ダンス等、時を忘れる程盛  
り上がる。

我が町会は、理事全員で  
綿飴、フライドポテト等、  
対応に大忙しである。地域  
全体が一つになって、祭り  
を盛り上げている。  
これこそが絆の原点で  
ある。

○いきいきサロン 役員4名  
とじこもり高齢者を減ら  
そうとの目的で発足し、13

年になる。参加者は約25名、月1回開催している。

会場は、昔の歌声喫茶のようであり、大声をあげ、若い頃を思い出し、ひと時を楽しんでいる。大変人気があり、これからも充実した活動を進めていきたい。

### 「これからの町会の取組」

一 災害時相互応援協定を喜多見特別養護老人ホーム喜多見と締結しました。

### 烏山地域

## 地区町連の役割

上北沢一丁目自治会長 鈴木 誠

入所者の安全確保に協力する態勢づくりと訓練の実施。

二 町会加入率の向上。町会の活動をより理解していただき、加入促進運動を進める。特に理事OBの方々にも協力応援の要請をし、町会加入を促してもらおう。

おわりに  
ご紹介した一部の活動で

すが、他に行政からの要請、地域の参加など理事さんの活動が多くなっております。サラリーマン化している現在、平日に動いて頂くことは無理。働く女性も多く、町会活動も日曜日の開催が主になっているのが現状です。

事（臨床医学研究所）の建設工事が着工しました。平成21年4月に完成し、研究所業務が開始しました。引き続き二期工事が進んでおります。

二件目は、松沢病院敷地内に新しく医療観察法病棟の建設と松沢病院の立替計画が公表されたことです。



東京都医学系総合研究所

上北沢地区町会、自治会連合会は、上北沢、八幡山の2つのまちで構成されています。

上北沢一丁目自治会、上北沢町会（二丁目、五丁目）、八幡山町会（一丁目、三丁目）、都営八幡山団地自治会、都営八幡山アパート自治会で、各会の会長5名で組織されています。

上北沢地区町連は、各会との情報交換、行政のお知

らせ等が、主な活動内容でした。しかし、静かな町が一変するよう大きな問題が起きたのです。

一件目は、元松沢高等看護学校跡地に（松沢病院敷地内）3つの研究所（臨床医学、精神医学、神経医学）の建設計画が公表されたことです。

近隣住民の不安はエスカレート、「こんな住宅地で

臨床医学で何を研究するのか」、「病原菌の心配はないのか」、不安がつのり、説明会の早期開催を望む声が強まってきました。

そこで上北沢地区町連が窓口となって三研側と話し合いを重ねた結果、説明会が早期に開催されることになりました。数回の説明会で、近隣住民の不安にも一定の理解を示していたとき、平成19年7月より第一期工

三研建設より更に大きな問題となり、地元住民の不安は怒りとなり、建設反対運動が始まりました。

反対運動は拡大、上北沢町会が中心となり、反対署名運動が始まりました。

上北沢地区町連としても、連携し、東京都病院経営本部と話し合いを続けた結果、安心、安全を確保する為の、連絡、意見交換ができる場として、「松沢病院連絡協議会、松沢病院地域連絡会」を

設置することが決まりました。これで相互理解が深まり、現在工事が進んでおります。大きな不安を起こした、医療観察法病棟も、協議会の話し合いで、住民の要望を受入れて、敷地内の中央に計画変更して、建設されました。

平成22年3月に完成の予定となっています。引き続き、松沢病院本館の立替工事も始まりました。こうして連絡協議会、地

行政情報

域連絡会等の会議の中で日常の不安、事故等が発生した場合、話し合っ解決する場をつくる事ができました。今迄はどちらかと言えば、

閉ざされた病院であったが、今日では、開かれた病院へと改善されました。町連として長年の願望であった將軍池が見える公園、病院の周囲の舗道の拡大で

ジョギングコース、消防団ポンプ格納庫と集會室等、協議会で要望し解決することが出来ました。町連の団結で難問を解決、役割を果たせました。

世田谷区民健康村

都市と山村の交流から来年で30周年

区民健康村・ふるさと交流課

区は昭和56年に群馬県川場村と「相互協力協定(縁組協定)」を締結し、双方が主体性を持ち、相互の理解と信頼の上に立って協力していくことを約束しました。来年はその縁組協定締結から30周年を迎えます。

区は「第二のふるさと」づくりを進めています。例えば里山自然学校では、3つの塾を開塾して自然体験を通じた交流を図っています。

アップルなど 茅葺塾：茅の刈り取りから茅葺の実践まで、楽しみながら古きよき時代の再生を体験

区民健康村では現在、「ふじやまビレッジ」「なかのビレッジ」の両施設を中心に、移動教室や里山自然学校など、幅広い世代に年間を通じて多彩な事業を展開

「やま(森林)づくり塾」：間伐や植林など森林作業の基礎技術教室や、親子で参加できる体験教室など

この他にも様々なイベントをご用意していますので、ぜひこの機会に健康村事業に参加し、村民との心の交流を深めてみませんか。詳しくは、世田谷区健康村

◎農業塾：野菜づくり入門コースや種蒔きから

◎農業塾：野菜づくり入門コースや種蒔きから

TEL 0278-1521 (TEL) 0278-1521

町会・自治会長交替のお知らせ

平成22年1月10日現在

町会・自治会名	新会長	前会長
馬事公苑前ハイム管理組合	牛尾 信重	山崎 裕
船橋会	斎藤 眞鈴	木 幸次

町総連ニュース

編集後記

全国自治会町会連合会表彰

▼平成21年11月5日

全国自治会連合会鳥取大会において、後藤正三町総連会長(北沢3・4丁目西町会長)が全国自治会連合会表彰を受けました。

今号において災害時要援護者支援についての記事が2件ほど掲載されています。区では災害時要援護者の避難支援の取り組みを進めております。

これは、町会・自治会と区との支援協定を締結する事から始まります。

東京都知事功労者表彰

▼平成21年9月24日

東京都庁において、斎藤重男町総連副会長(玉堤町会長)が東京都功労者表彰を受けました。

11月現在で40町会・自治会に留まっています。そして名簿登載者は全所帯数の僅か2%未満です。災害時に支援を望む高齢者ももっと沢山います。要援護者を如何に支えるか、町会・自治会に課せられた責任は重いものだと思います。

編集委員 佐藤 和郎